



活動タイトル	「暴力のない社会をめざして。子どもたちに届けよう自分の心と体を守るCAPプログラムを！」		団体名	あおもりCAPの会	
<p>1年間の活動(アウトプット)の目標(事業全体)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校関係機関、警察等関連機関にCAPプレゼン訪問する。 2. 県内4地区の会員は担当の地域の小中校をCAPプレゼン訪問活動を行う。(1校以上に) 3. 県内の大人ワークショップの公開開催する。 4. 児童養護施設の職員・児童(幼・小・中・高)1園→2園にCAPを届ける。 5. グループ内の研修はNPO法人(子ども・人権・エンパワメントCAPながの)に講師依頼する。 6. 「あおもりCAPの会」リーフレット作成。チラシ内容の検討・作成。 7. CAPながのメンバーと行政への同行訪問してもらい、他県のCAP実施状況、様子を伝えてもらう。 	<p>■ 活動報告</p> <p>1. プレゼンと訪問 青森市の教育委員会、教育長、子育て支援課、県教育庁生涯学習課、文化学習活動推進課、青森警察の生活安全課と地域課へプレゼンと数か月ごとに訪問し、周知をした。</p> <p>2. 地区の学校へプレゼン訪問 弘前1小学校と2保育園、八戸保育園へプレゼン訪問。</p> <p>3. 公開ワークショップ開催 青森市でJ-CAPTAトレーニングディレクターを招いて2つの公開ワークショップを開催した。</p> <p>4. 児童養護施設ワークショップを1施設から2施設へ 青森市の養護施設へCAPワークショップ(教職員、幼、小、中、高)を届けた。 またCAPいわての方に協力をお願いし、一緒に提供した。</p> <p>5. グループ内研修 「特定非営利活動法人 子ども・人権・エンパワメント CAPながの」から講師を呼んで、グループ内研修(これから進めていくことなど)を4回行った。</p> <p>6. リーフレットと、チラシ内容検討 リーフレットを作成。公開ワークショップのチラシやアンケートの内容を検討した。(6回)</p> <p>7. 行政等へ同行訪問 他県の活動状況の冊子を提示しながら、単独で訪問(同行無)。 特別支援学校へ「特定非営利活動法人 子ども・人権・エンパワメント CAPながの」の方と同行訪問をした。</p> <p>その他、長野県の養護施設の教職員ワークショップに研修に行った。</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況</p> <p>1. プレゼンと訪問 メンバー3人で各所に約3か月ごとに訪問をした。 訪問の度に訪問箇所が増えていき、周知を実感できた。</p> <p>2. 地区の学校へプレゼン訪問 4地区の中2地区で訪問プレゼンを実施した。 訪問できないところへは広報を送付した。</p> <p>3. 公開ワークショップ開催 公開ワークショップを2回開催し、アンケートを実施した。 : 自分も大切だと実感し、理解できたという回答が半数以上 : 参加してくれた団体とのつながりができた。</p> <p>4. 児童養護施設ワークショップを1施設から2施設へ 2施設に対してワークを開催し、次回もできるように検討したいと回答をうけた。</p> <p>5. グループ内研修 「CAPながの」を招き、グループ内研修を4回実施した。 : アンケートでこれからも研修をしていきたいとの回答が100%だった。 次回から予算を立てて講師を呼んでの研修を考案中。</p> <p>6. リーフレットとチラシ内容検討 チラシの文章等の検討を行い、ワークショップに参加しやすい言葉使いなど団体メンバーで意見交換を行い、よりわかりやすい内容となった。</p> <p>7. 行政等へ同行訪問 関係者のみへの同行訪問になった。</p>	<p>■ 活動風景</p> <p>1回目の公開ワークショップの様子</p> <p>3月16日</p> 	<p>2回目の公開ワークショップの様子</p> <p>6月15日</p> 
<p>■ 1年間の活動のまとめ</p> <p>当初の計画通り、公開ワークショップ、児童養護施設ワークショップ、グループ内研修を実施・開催することができた。 活動を通して、次回への誘致や参加団体とのつながりをもつことができた。そこから、おとなワークショップや、教職員ワークショップ等の依頼が入り、また、子どもにも届けるにはどうしたらよいかの、確認が入ってきた。児童虐待防止予防等に関心のある人や、団体などにCAPプログラムを少しずつではあるが、周知できた。</p>	<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催地域候補の年間スケジュールを確認する。 ①事前に各広報誌やHPを確認し、行事の把握をしておくことと集客の見込みが検討できる。 ②参加しやすい期間などの聞き取りやカレンダーを作って可視化することで日程が組みやすくなるのが分かった。 ③各ニーズ調査をすることで、広報するときの話のきっかけになり、アプローチがしやすい。 ●公開セミナーやワークショップを行うなら、さまざまな準備(役割や準備物の相互確認。当日の事前打ち合わせと再確認)をメンバーで理解しておくこととスムーズに行える事が分かった。また、ワークショップに参加できなくても各自でできること、各広報、チラシ配布、個々でのSNSの発信(知り合い等)を行いこれからも続けていけるようになった。 ●ブログでの発信(会として)や、ラインを使う事で連絡・相談が迅速にできた。 ●ワークショップの行い方についての見直しや、改善に役立った。(全体の進行メモを作り、誰かに聞かなくても各自で進められるようにした。) ●月1の定例会を行い、各自のできる事を確認、準備物等書式統一化し、あおもりCAPの会としての進め方のマニュアルを作成した。 	<p>■ 実施した人材育成策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メンバー全体がスキルの向上や知識の理解を深めるために、フォローアップや月一の勉強会を行うなど意欲が向上した。 ●スペシャリストとして活動できるメンバーや賛同者を増やすため、次年度に養成講座を開催できるように、現在検討を進めている。 	<p>■ 活動成果のアピールポイント(自由記入)</p> <p>この1年間の活動を通じて 参加者の理解を深め、各行政の関係者や、様々な団体へ周知することができ、広く認知する事を達成しました。</p> <p>■ 受益者の変化(効果測定結果等)</p> <p>公開ワークショップ さまざまな団体や、行政に参加してもらったことで、CAPを進めてくださる人が増えた。</p> <p>養護施設ワークショップ アンケート結果では、漠然と抱えていた問題をCAPを受けたことで解消され安心して話せるようになったとの回答をいただいた。</p> <p>グループ内研修 各自の足りなかったことを知ることができた。また、学びを深めようとの意識があがった。</p>		